

## 菅原繁蔵『樺太植物誌』(1975)の植物図について

札幌市 高橋 英樹

サハリンの植物を調べようとして第一に紐解くのは、菅原繁蔵の『樺太植物誌』4巻(菅原 1975a, b, c, d)だろう。本書は戦前に出されたオリジナル版『樺太植物図誌』4巻(菅原 1937, 1939, 1940a, b)の誤字等を訂正し改題・復刻したもので、現在でも比較的入手しやすいサハリンの植物図鑑である。植物図版については部分図の添付番号を除けばオリジナル版から変更されていない(高橋・東 2021)。

植物画については、最終巻の最後の図版(Tab.)が892番で、1図版ごとに全形図と数点の部分拡大図から成っているので、構成する植物図としては全体で数千点にも上る大変な労作である。

あまりに多数に上ることもあり、誤りや問題のある植物図も見られる。このままではサハリンの植物分類地理において誤った解釈を引き起こす可能性もあるので、とりあえず目についた図版について誤りや疑問点を指摘しておきたい。

### 1. Tab. 277. ツクバネソウ *Paris tetraphylla* A.Gray (樺太植物誌第2巻: p. 590)

本図版の個体は葉が4枚輪生するため一見ツクバネソウに見えるが、花部をよく確認するとクルマバツクバネソウ *P. verticillata* M.Bieb. の4葉個体である。葉数については、図鑑によって違い、『改訂新版日本の野生植物 1』(高橋 2015)では「ツクバネソウが4個、クルマバツクバネ

ソウ(以下、略称クルマバ)が6-8個」とし、『Flora of Japan IVb』(Miyamoto 2016)では「ツクバネソウが(2-)4(-6)枚、クルマバが(4ないし)5-8(-10)枚」とする。一般にクルマバは葉のサイズや枚数がかかなり変化し、しばしばツクバネソウのように4枚になる。このため葉が4枚だからツクバネソウだとは早計に決めつけない方がよい。輪生葉の枚数については、Miyamoto (2016)の表現がより実態に合っていると思う。クルマバではがく片状にみえる外花被片の間に糸状線形の内花被片が垂れ下がり、この「ツクバネソウ」の図にはこのクルマバ

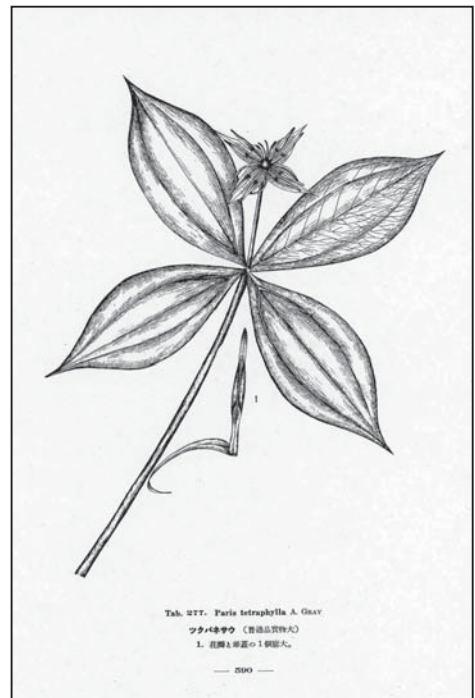


図1 菅原繁蔵著『樺太植物誌』のツクバネソウ図版